

カービュー マーケットウォッチ (2010年2月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で前年同月比124.9%と6カ月連続のプラス！

10年 1月順位	09年 12月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	22,306
2	(2)	→	フィット	ホンダ	13,058
3	(4)	↑	ヴィッツ	トヨタ	8,715
4	(6)	↑	カローラ	トヨタ	8,035
5	(10)	↑	パッソ	トヨタ	7,356
6	(9)	↑	セレナ	日産	7,349
7	(7)	→	ステップワゴン	ホンダ	6,471
8	(5)	↓	フリード	ホンダ	6,436
9	(12)	↑	ヴェルファイア	トヨタ	5,813
10	(20)	↑	デミオ	マツダ	5,589
11	(8)	↓	ヴォクシー	トヨタ	5,513
12	(17)	↑	ノート	日産	5,320
13	(13)	→	ウィッシュ	トヨタ	5,168
14	(19)	↑	キューブ	日産	5,114
15	(11)	↓	エスティマ	トヨタ	4,867
16	(21)	↑	ティーダ	日産	4,103
17	(15)	↓	マークX	トヨタ	3,964
18	(24)	↑	エクストレイル	日産	3,953
19	(18)	↓	S A I	トヨタ	3,914
20	(14)	↓	ノア	トヨタ	3,818

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ
 ※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

**■乗用車全体で前年同月比124.9%と6カ月連続のプラス！
軽乗用車は前年割れだが、輸入車も3カ月連続で前年を上回る**

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した1月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車全体の販売台数は31万9749台で、前年同月比124.9%と6カ月連続で前年を上回り、3カ月連続の2ケタのプラスとなった。特に3ナンバーの普通乗用車が前年同月比168.1%（5ナンバー小型乗用車は125.2%）と絶好調で、「トヨタ プリウス」の前年同月比389.3%を筆頭に、「トヨタ マークX（ジオ含む）」257.1%、「トヨタ ヴェルファイア」212.5%、「日産 エクストレイル」195.2%など、ボディタイプを問わず、売れ行き好調な車種が多くなった。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車は21万832台で、前年同月比144.5%（日産デュアリス輸入分含む）と7カ月連続のプラス。メーカー合計では軽乗用車を主力とするスズキ、ダイハツ以外は前年を上回り、3万6107台で前年同月比164.7%のホンダをはじめ、トヨタ10万9660台/148.9%（レクサス3833台/301.8%）、日産3万4376台/128.3%、マツダ1万2954台/138.1%、スバル4731台/115.7%、三菱4499台/160.4%と軒並み2ケタ増となった。月間ランキングでは「プリウス」、「ホンダ フィット」が8カ月連続の1、2位。前月3位だった「ホンダ インサイト」は22位に大きく後退したが、「ヴェルファイア」が前月12位から9位、「マツダ デミオ」が前月20位から10位にランクアップし、ベスト10入りを果たした。ベスト10の10車種はもちろん、ランキング30位までを見ても、24位の「スズキ スイフト」、29位の「トヨタ クラウン」を除き、すべて前年を上回る売れ行きだ。

軽自動車は乗用車部門では9万9905台で、前年同月比97.8%とマイナスだが、貨物車を含めた全体では12万8297台で100.7%となり、15カ月ぶりに前年を上回った。

輸入車は乗用車全体で9012台、前年同月比111.0%と3カ月連続のプラス。海外メーカー製のみでは8397台で、11.1%増と、下落傾向に歯止めがかかった。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が2658台でトップに返り咲き、メルセデス・ベンツが1522台で2位、前月トップだったBMW（ミニを除く）は1008台で3位となった。VW、メルセデスとも前年同月比は142.0%、107.5%とプラスで、4位アウディ、5位ボルボ、7位プジョー、8位フィアットも前年を上回るなど、幸先のいいスタートとなっている。

■ココも気になる！その1

業績回復が明確になった各メーカーの今年の新車攻勢は？

一昨年のリーマン・ショックから始まった世界的な経済危機により、各メーカーとも昨年度決算は大打撃を受けた。トヨタは59年ぶりの最終赤字、日産は14期ぶり、マツダは8期ぶりの営業赤字になるなど、非常に厳しい内容になっていた。しかし徹底したコスト低減と経費削減が行われ、さらに各国で実施された公的な販売支援策で販売台数が上向いたことで、業績は一気に回復傾向となった。今期はトヨタを除いた乗用車メーカー（日産、ホンダ、マツダ、三菱、スバル、スズキ、ダイハツ）が営業利益を確保する見通しで、トヨタも期初予想8500億円の赤字から200億円まで大幅に縮小する予想となっている（※2010年2月4日リリース）。

とはいえ、各国の販売支援策は限定的なもので、今年はその反動も出てくるはず。日本でも新車購入補助金制度は9月まで延長されたが、エコカー減税については、いまだ不透明で、さらに一躍マーケットの牽引役となったプリウスをはじめとするトヨタのハイブリッドカーは、リコールがかかったことで売れ行きにブレーキがかかるかもしれない。

そんな中で期待したいのが、やっぱりニューモデル。というのも今年は売れ筋モデルのモデルチェンジが目白押しなのだ。トヨタでは2月の「パッソ」を皮切りに、「ラクティス」、「ヴィッツ」、そしてレクサス版プリウスともいわれるレクサスの新型ハイブリッド、日産は「セレナ」、「エルグランド」のミニバン勢に「マーチ」と「ティーダ」、ホンダは早くも話題沸騰の「CR-Z」、マツダは「プレマシー」、三菱は2月発表の「RVR」、スズキは「スイフト」、ダイハツは2月の「ブーン」のほか、「ムーヴ」などの登場が噂されている。21世紀も始まって10年が経ち、クルマに対する要望も大きく変わってきているだけに、どんなモデルチェンジになるのか、大いに楽しみだ。

■ココも気になる！その2

ゴルフが7年連続年間ランキング No.1 を達成！

輸入車の販売データを集計している日本自動車輸入組合（JAIA）から、車名別年間ランキングが発表されたので、海外メーカー製乗用車についてベスト10を紹介しよう。

1位は「VW ゴルフ」シリーズで2万1413台（前年比92.0%／前年ランキング1位）、以下、2位「BMW 3シリーズ」1万4042台（同78.8%／同2位）、3位「BMW ミニ」1万1002台（同86.3%／同4位）、4位「メルセデス・ベンツ Cクラス」9384台（同65.0%／同3位）、5位「メルセデス・ベンツ Eクラス」7428台（同159.5%／同9位）、6位「VW ポロ」7253台（同73.8%／同5位）、7位「アウディ A4」シリーズ6587台（同110.2%／同7位）、8位「BMW 1シリーズ」5350台（同74.1%／同6位）、9位「アウディ A3」シリーズ4338台（同117.8%／13位）、10位「メルセデス・ベンツ Bクラス」3435台（同68.2%／同8位）となった。

「ゴルフ」は7年連続のトップで、ベスト10に「ゴルフ」と「ポロ」、20位までに「ティグアン」（2413台／14位）、「パサート」（2039台／17位）がランクインしたVWはブランド別で10年連続の年間No.1を達成した。「ゴルフ」は昨年4月に6代目にモデルチェンジしたこともあり、前年比はマイナスになったが、海外メーカー製乗用車全体で82.8%と落ち込んだことを考えれば、人気は健在といえるはず。また昨年5月にモデルチェンジした「メルセデス・ベンツ Eクラス」は、最もベーシックなE300が約3カ月ほど遅れて導入されたにもかかわらず、前年比159.5%と売れ行き好調だったのも、さすがといったところ。このほか、08年にモデルチェンジした「アウディ A4」シリーズ、04年デビューながら年々改良を受けてきた「アウディ A3」シリーズも前年を上回る売れ行きで、アウディ人気を裏付ける形となっている。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報担当 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
